

住まいの空間を科学する ～大学生のひとり暮らし～

岡山県立玉島高等学校

実施学年：2年
生徒数：267人（7学級）
実施教科：家庭科
実施時間数：8時間



さまざまな規格の一畳を作成



机・いすなど家具を計測



インターネットで賃貸物件を検索



間取り図を作成



個人発表の準備



個人発表と相互評価

学習のねらい

- 1 「住空間を科学する」ことで、暮らしやすさと住まいの広さについて考えさせ、住空間を有効に使う方法を理解させる。
- 2 思考支援型の授業の構築をし、住居を身近に感じさせるとともに、より良い住まいと暮らしのあり方について考えさせる。

学習活動

- 1 生活行為には一定の空間が必要であり、住空間を有効に使うためには間取りが重要であることを確認する。
- 2 生活に適した空間と家具などの配置を考えるために、グループで人や物（家具や窓など）の寸法を測ったり、ドアの開閉方法を調べる。
- 3 寸法には規格があることや動作に必要な空間が必要であることを理解する。暮らしやすさと住まいの広さについても考える。
- 4 「大学生のひとり暮らし」をテーマに、住居を選ぶ観点（大学への通学の利便性、価格など）、を考える。
- 5 賃貸住宅の広告（住宅情報誌、インターネット、新聞広告など）から志望大学近隣の住んでみたい住居を選ぶ。
- 6 平面記号の基本を知り、平面図に家具などの配置を行う。
- 7 選んだ物件や作成した平面図を書画カメラを用いてプレゼンテーションする。評価用紙を用い相互評価を行い、感想・意見を発表する。
- 8 多様な住まい方（空間の利用）があることを理解する。

準備品

模造紙、画用紙、マジック、さし等の文房具類、メジャー（各班）
書画カメラ、プロジェクタ、スクリーン、VTRテープ
平面計画シール教材（個人）、賃貸物件情報冊子等

実施場所

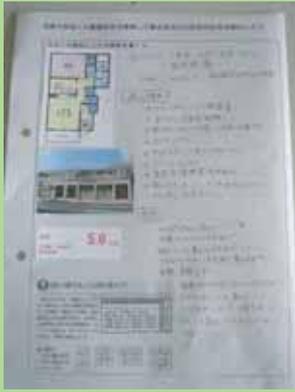
家庭科室、コンピューター室、校内各場所

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○快適な住空間を考えるために「住空間を科学する」をテーマに学習することを学ぶ。 ○模造紙を用いて本間・江戸間などさまざまな規格の一畳を作成し体験する。 ○寸法には規格があることや、動作に必要な空間が必要であることを理解する。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ畳でもメーターモジュール、京間、江戸間などではいぶん広さが違うことが体験でき、よくわかった。 ●何気なく使っている家具の寸法などは法律で決められていることを初めて知った。
<p>コンピューター室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○志望大学近隣の賃貸住宅を広告（住宅情報誌、インターネット、新聞広告など）から探す。 ○賃貸物件を選ぶ際に重視する条件を考える。 ○住んでみたい賃貸物件を選び特徴をプリントにまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ●膨大な数の物件があり、設備もそれぞれの特徴があることが理解できた。 ●インターネットではわからないことがあるので、実際に物件を見ることが大事であることがわかった。
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○選んだ賃貸物件について、「なぜこの物件にしたか」「重視した条件は何か」をグループで話し合い、快適な空間について考える。 ○住居を選ぶ際には、物件の間取りだけでなく、周囲の環境（日照・騒音・交通）なども考える必要性があることを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ●理想を追求すればするほどお金もかかり、現実には厳しく社会はうまくまわっていると思った。 ●自分一人で住居を決めるのは簡単ではないと思った。 ●家賃は所在地・築年数・設備などから決まることがよくわかった。
<p>コンピューター室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○快適な部屋をつくるために、必要な家具や家電製品を検索し記入する。 ○窓、戸、家具などを計測し寸法には規格があることを理解する。 ○選んだ物件の空間をどのように利用するかを考える。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ●家具の寸法を調べることで、現実的にイメージでき、空間を上手に使うことができると思った。 ●家具を通信販売で購入するときは、実際とイメージとでは違うので気をつけなければいけないと思った。

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
家庭科室 1 時間	<p>○VTR 視聴により家や「すまう」ことに関心を深める。</p> <p>○平面記号の基礎や LDK について理解する。</p> <p>○家づくりは材料や形だけでなく、快適な生活のために空間の計算が綿密にされていることを知る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●自分の知らなかった家の作り方や最近のプレハブの進歩を知って驚いた。 ●住居の歴史で家の変化がわかり人間の創造力はすごいと思った。 ●プレハブは同じ形が多いのでやはり木造にしようと思った。
家庭科室 1 時間	<p>○平面記号を学ぶ。</p> <p>○平面図に家具などのシールを貼り、空間をレイアウトする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●間取りを考えるのは難しく大変だと思った。 ●無駄な空きスペースができるので、家の配置を考えるのは難しいと思った。
家庭科室 1 時間	<p>○一人3分程度で発表する。「私が大学生になり賃貸アパートを借りて一人暮らしをはじめるとしたら・・・」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 条件 2. 物件の紹介 (物件プリントを提示) 3. 物件の特徴と選んだ理由 4. 内装の特徴と紹介 (間取りプリントを提示) 5. まとめと感想 <p>1～5の項目を入れて発表する。</p> <p>○相互評価を行なう。</p> <p>○感想や意見を発表する。</p> <p>○多様な住まい方(住空間の利用)があることを理解する。</p> <p>○空間を科学することで、快適な住まいと暮らし方について理解する。</p>	  	<p>発表後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同じ広さの部屋でも設計する人によってずいぶん空間の使い方が違うことがわかった。 ●インターネットの速度など、細かいところまで気をつけて物件を選んでいることに感心した。 ●自分は値段を中心に選んでいたけれど、発表を聞いて、快適に住むためには、値段だけで決めてはいけないことがわかった。 ●他の人の発表を聞いて、周囲の環境や大学での勉強やバイトのことなど、いろいろなことに気を配って選んでいることがわかり、勉強になった。

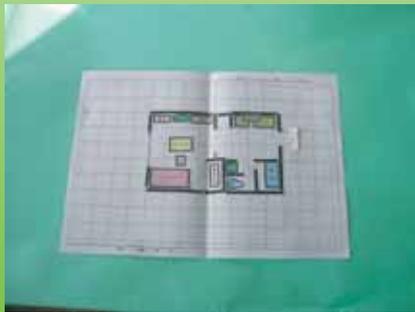
生徒の作品



★賃貸住宅の広告をまとめたプリント



★「空間を科学する」学習の感想



★平面図の構成



★相互評価表

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 住居を身近な問題として取り上げるために、インターネットを用いて情報を収集させた。生徒はインターネットをよく利用しているが、賃貸物件を検索するのは初めてであり、関心を持って取り組んでいた。
- 思考支援型の授業にするためには、綿密な計画と道具や視聴覚教材などの準備が必要であるが、生徒たちが口々に「楽しい、おもしろい」「役に立つ」と評価してくれたので、準備の苦労を感じなかった。

生徒の反応

- 志望大学近隣の賃貸物件をインターネットで探したり、間取りをデザインすることで、空間をどのように使えば住みやすくなるのかを積極的に話し合っていた。さらに、「志望校への夢がふくらんだ」「なんとしても志望校に受かりたい」と進路面においても意欲的な意見が聞かれた。
- 各自の選んだ物件と間取りをプレゼンテーションすることで、生徒たちは多様で個性的な空間設計に興味深く聞いていた。

教師の変化

- 今まで、「住居」分野はあまり身近な問題でないため、関心を示さないだろうと思い込んでいた。しかし、多様な進路を選択するようになった高校生にとって、大学進学先の住居へのこだわりは思いのほか強く（例えばインターネット環境の完備だけでなく、その性能を重視するなど）、驚くほど意欲的に取り組んだ。そこで、教科の学習や進路学習へのモチベーションを上げるためにも、科学的な視点や内容を取り入れた継続的な住居学習が必要であることを実感した。